



平成 22 年 11 月 9 日

各位

会社名 株式会社ネプロジヤパン
代表者名 代表取締役社長 小澤 正彦
(JASDAQ・コード 9421)
問合せ先
役職・氏名 取締役常務執行役員 筒井 俊光
経営管理本部長
電話 03-6803-3976

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日付「平成 22 年 3 月期 決算短信(連結)」にて発表いたしました平成 23 年 3 月期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正するとともに特別損失の計上についてお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,000	150	150	60
今回発表予想 (B)	7,703	△132	△199	△597
増減額 (B - A)	703	△282	△349	△657
増減率	10.0%	—	—	—

(2) 修正の理由

売上高につきましては、移動体通信事業における携帯電話端末販売台数が増加したこと等により前回予想比 703 百万円増の 7,703 百万円となる見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、コンテンツ・メディア事業におけるインターネット広告事業の収益が悪化したこと及び移動体通信事業における移動体通信事業者からの手数料が減少したこと等により営業利益は前回予想比 282 百万円減の△132 百万円、経常利益は前回予想比 349 百万円減の△199 百万円となる見込みであります。

四半期純利益につきましては、ソフトウェア等の固定資産減損に伴う減損損失 377 百万円及び貸倒引当金繰入額 218 百万円(2. 特別損失の計上参照)、並びに連結子会社におけるアフィリエイト(成果報酬型広告)事業廃止に伴う事業撤退損 99 百万円(平成 22 年 10 月 26 日付「子会社に係る事業の一部廃止及び特別損失の発生に関するお知らせ」参照)等により、前回予想比 657

百万円減の△597百万円となる見込みであります。

(3) 通期 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	17,000	500	550	150
今回発表予想 (B)	17,000	200	100	△400
増減額 (B - A)	—	△300	△450	△550
増減率	—	△60.0%	△81.8%	—

(4) 修正の理由

売上高につきましては、移動体通信事業におきまして、新たなスマートフォンの登場等により、携帯電話端末販売が引続き堅調に推移する見込みであることから、概ね前回予想通りに推移する見込みであります。

利益につきましては、コンテンツ・メディア事業におきまして、下期新規アプリの投入や販管費の圧縮等により収益の改善が見込まれるものの、上期の業績が当初の見通しを大幅に下回ったことから営業利益は前回予想比 300 百万円減の 200 百万円、経常利益は前回予想比 450 百万円減の 100 百万円、当期純利益は前回予想比 550 百万円減の△400 百万円となる見込みであります。

(5) 前期の実績 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期	6,331	147	103	△90
通期	12,624	122	28	25

2. 特別損失の計上

(1) 固定資産の減損損失の計上

当社が保有するソフトウェア等の一部におきまして、事業環境の変化に伴い今後収益性が当初予想を下回ることが見込まれる資産につきましては減損の認識、測定を行ないました。

その結果、平成 23 年 3 月期第 2 四半期におきまして、減損損失 236 百万円を特別損失に計上いたします。

(2) 貸倒引当金繰入額の計上

個々の貸付債権及び営業債権に対する回収可能性を精査しました結果、平成 23 年 3 月期第 2 四半期におきまして、貸倒引当金繰入額 189 百万円を特別損失に計上いたします。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の

業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以上